

令和6年1月10日 新春記者会見

【市長年頭あいさつ（要旨）】

今年、平和で穏やかな年をと願っていたところ、能登半島で大きな地震が発生し、また大きな事故もあり波乱の幕開けとなった。亡くなられた方にお悔やみを申し上げるとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。地震については、本市からは当日の夜に消防隊員を6名、翌日には市民病院から医師2名、看護師2名、薬剤師2名の災害派遣医療チーム「DMAT」を被災地に送り、支援をしている。また、4日には、食糧、医薬品、簡易トイレ、ブルーシートなどを4tトラックで届けた。現在、市では「義援金箱」を設置し、市民の皆さんの支援の申し出に対応している。被災地域では、まだ大きな余震が続くなどライフラインが整っておらず、避難生活を余儀なくされている方が少しでも早く日常が取り戻せるよう支援を行っていききたい。

去年は、3年余り続いた新型コロナウイルス感染症から、回復正常化の年であったと思う。5月に新型コロナウイルス感染症が、5類感染症に引き下げられ、市の様々な事業、市民まつりや令和夏まつり等のイベントはコロナ禍前の規模に戻して開催し、コロナ禍前以上の多くの方々でにぎわった。

市の事業だけでなく、各地域の夏祭りや盆踊り等の地域の繋がりやの基盤となる伝統行事は重要なものである。そのため、コロナによって途絶えさせてはならないという思いの中で、区長や地域の皆様方をお願いをし、復活させるために市として支援をさせていただいた。大半の地域では、概ねコロナ禍前に回復してきているのではと思っている。

コロナの影響だけでなく、デジタル技術、通信技術を筆頭に急速に社会が変化していると感じている。コロナ禍の中で、オンライン授業やオンラインミーティングが一般化になるなど行動様式が変化しているなかで必要な対応を行政も行っていかなければならない。

財政状況については、非常に厳しい状況になっている中で、必要なことをやっていかなければならない。来年度予算編成に向けて危機感を持って進めていく。

昨年、NHKの大河ドラマ「どうする家康」が放映されたことで非常に小牧山に注目が集まった。4月には、小牧山山頂の歴史館をリニューアルオープンし、全国各地から来場いただいた。また、小牧南小学校の全面改築工事が完了し供用の開始や、第3老人福祉センター「田島の郷」のオープンもあっ

た。

子育て支援については、県内初の市独自施策として、新たに0歳児から2歳児の保育料を無償化し、全園児の保育料無償化を実現した。今後も、子育て支援として、経済的負担の軽減、市外から市内への転入促進を図っていく。

また、第2子中学生および第3子以降の小中学生の給食費の無償化を市独自の施策として開始した。さらに、国の「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」を活用して、すべての児童生徒の令和5年度3学期分の学校給食費の完全無償化を行った。経済的に困難な状況にある学生・生徒への進学支援事業の拡充など、子育てに対する経済的負担の軽減を強化した。

昨年6月より、愛知県市長会の会長を務めており、国や県に基礎自治体の行政、地域実情をしっかりと届けるために活動している。今年の5月には、東海4県の市長をお招きし、34年ぶりに本市で東海市長会の総会を開催するため、本市の魅力等をPRしていきたい。

また、今月には外国人集住都市会議が本市で開催され、外国人住民の課題等を議論する。本市は、市民人口約15万人のうち約1万人を超える方が外国人市民である。外国人の方が増加しているので、課題に対して今後もしっかりと対応していきたい。

今年は、本市の最上位計画である「小牧市まちづくり推進計画第2次基本計画」の策定を完了させ、本計画に基づいたまちづくりをスタートする年である。

来年には、市制施行70周年を迎えるにあたって記念事業の準備を進めていきたいと考えている。このような周年の機会を、市民の皆さんと広く連携をして、未来に向けた本市のまちづくりをさらに進めていく機会としていきたい。

今年も、市政記者の皆様のご理解とご協力を賜りながら、市政を進めてまいりたい。

【説明要旨】

■小牧市制施行70周年記念事業基本方針について

本市は令和7年1月1日に市制施行70周年を迎える。70周年を迎えるにあたり、記念事業の基本方針を作成し基本方針に則り事業を実施する。

記念事業の実施期間については、令和7年1月1日から12月31日の1年間を基本とし、記念事業を効果的に盛り上げていくため、令和6年度から準備や

広報等を実施していく。記念事業は、「式典事業」、「プロジェクト70、市民企画事業」、「PR事業」で構成する。コンセプトは、「70年の挑戦 つなごう未来へ 夢とキラめくこまきびと」である。事業の方向性及び立案・実施の視点については、「こまきへの愛着と誇りを深める」、「こまきに関わるすべての人がつながる」、「未来につなぐ夢への挑戦を後押しする」の3つのテーマを、市民参加、事業連携等の視点により立案・実施していく。

具体的に実施を検討している記念事業の内容について、式典事業は、令和7年5月に市民会館大ホールにて市制施行70周年をこまきに関わるすべての人で祝う記念式典を開催する。プロジェクト70は、市制施行70周年記念事業にふさわしい「市」が主催、共催する事業を年間をとおして70プロジェクトを目標に選定し実施する。市民企画事業は、市制施行70周年記念事業として団体や企業等が主体的に企画・実施する事業を公募し、事業経費を補助する。PR事業は、市の既存事業、市民、団体、学校、企業等が実施している既存事業に「小牧市制施行70周年記念」の冠及び70周年記念ロゴマークを付して実施する等周知啓発を図る。

■自動運転実証調査事業の実施について

本市では、市民の日常生活の足を支えているこまき巡回バス「こまくる」の確保維持に向け、懸念される路線バスの運転手不足に対応するため、自動運転に関する情報収集、分析及び検討などを行い、導入の検証を進める。

今年度については、名鉄小牧線小牧駅から小牧山までの区間で車両1台を使用して実証調査を実施する。なお、本実証調査事業は、BOLDLY株式会社と支援業務委託契約を令和5年11月28日（火）に締結し、実施するものである。

実施期間は、令和6年2月13日（火）から2月26日（月）までの14日間であり、出発式は、2月13日（火）9時から小牧山南麓ガイダンスエリアで予定している。

実施ルートは、小牧駅東側ロータリーから小牧山南麓ガイダンスエリアまでの約1.8kmとし、ダイヤは、平日は9時から16時まで、日当たり往復7便、休日は、8時30分から16時30分まで、日当たり往復8便とする。なお、ダイヤについては今後、名鉄バスやあおい交通と協議をしながら決定する。

運行車両について、名称は、NAVYA ARMA（ナビヤ アルマ）で、速度は時速20km未満、乗車定員はオペレーターを含め11人である。

検証内容については、観光振興やまちづくりへの有効性に関する検証として、観光振興に関する調査、まちづくりに関する調査。社会受容性の醸成に関する検証として、交通に関する調査。自動運転環境の向上に関する検証として、走行環境に関する調査、自動運転技術に関する調査を実施する。

■「外国人集住都市会議 こまき 2023」の開催について

外国人集住都市会議は、全国11都市が参加し、外国人住民に係る様々な課題の解決や、外国人住民の多様性を都市の活性化につなげる施策等について調査・研究を行っている。

今年度は、本市が会議の座長都市を務めており、令和6年1月18日（木）午後1時から、名鉄小牧ホテルの3階にて開催する。当日は、浜松市をはじめ、豊田市、鈴鹿市など9都市の首長が登壇し、総務省や出入国在留管理庁など国の関係省庁の方々と多文化共生の推進に関する議論、公開会議が行われる。

テーマは、「誰もが夢や希望を持って暮らせる支え合いの多文化共生社会の実現～人口減少社会における多文化共生の必要性～」で、主に外国人住民の日本語教育や就労に係る諸課題、多文化共生社会の実現に向けた基盤整備について議論が行われるため、ぜひ会場へ足を運んでいただきたい。

■その他

令和6年小牧市議会第1回臨時会提出予定議案について

[補正予算案]

《令和5年度小牧市一般会計補正予算（第12号）》

●歳入

補正前の額に4億6,947万1千円を追加し、657億2,233万6千円とするものである。

●歳出

「総合経済対策に伴う臨時給付金（均等割のみ課税世帯等）支給事業」

住民税が均等割のみ課税されている世帯に1世帯当たり10万円を、住民税非課税世帯及び住民税均等割のみ課税世帯において、世帯主と基準日に同一世帯となっている18歳以下の児童等に1人あたり5万円をそれぞれ給付するため、必要な経費を計上するものである。

● 繰越明許費補正

「総合経済対策に伴う臨時給付金（均等割のみ課税世帯等）支給事業」

臨時給付金の支給申請及び手続について、事業の年度内完了が見込めないため繰り越すものである。